

平成 28 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視 点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容		校 内 評 価		学校関係者評価 (3月24日実施)	総合評価 (3月28日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	課題探究を核とした科学的リテラシーの育成、グローバル教育の研究、思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業研究と進学実績を導き出せる教育課程の研究 主体的に学ぶ態度の育成を通し自己決定力を向上させる。	現在行っている文科省 SSH としての探究活動やグローバル教育一環である英語による成果発表会などの効果検証を行う。 学力向上進学重点校につながる確かな学力の客観的評価方法を検討する。	-1 教科共通目標のもと授業改善を発展させる。 -2 ヴェリタスなど生徒の思考力・表現力および英語コミュニケーション力向上のための取組成果を検証する手立てを考える。 学力向上進学重点校の指標基準を検討する。	-1AL 的視点を踏まえた授業実践による「思考力・判断力・表現力」および言語活動充実のための 4 技能の研究をめざし、各教科で目標および具体的手立てを確立し、授業研究に臨むことができたか。 -1 生徒による授業評価項目 4 の回答数増加に向けての取り組み、結果はどのようであったか。 -2 学校レベルとして模試・GTEC の結果分析はどうであったか。 学力向上進学重点校としての英語検定受験、やディベート、スピーチコンテスト、英作文コンテストへの参加を促すことができたか。また英語力習得に向け校内の新たな目標基準を策定できたか。	-1 職員研修 A L 講演会を開催した。具体的な手立てとしてホワイトボード(まなボード)を 11 月より導入、全授業時間の 80% の時間で活用された。次年度に向け各クラスに 10 枚設置した。 -1 研究授業時の各教科の目標設定にバラつきが見られ、その対策として、取組を整理した。 -1 評価項目 4 の集計結果は全体平均 42.4%。50% 超の教科なし。次年度の課題になる。 -2 GTEC の合計点の推移は全学年 10 点程度向上した。英語を使うコンテストや発表会などへの参加者数は 60 人となり前年比 37 人増となった。台湾サイエンスフェアに 1 名選出された。	-1 「思考力・判断力・表現力」に対する評価手立ての研究が必要である。 -1 生徒による授業評価項目を変更したことで初年度評価として考える。評価項目 4 の達成度が高かった教科の実施事例の共有などの研究などで研究を深める必要がある。 -2 世と自身に英語力を客観的に認知させ、主体的参加をさらに増やすための評価や実践の研究が必要である。	-1 達成度はかなり高いと思われるが、「思考力・判断力・表現力」の指導は国語科が主導を取るべきではないか。次年度の目標とするべき。 -1 まなボードの常設は評価できる。次年度からどのような数値で活用状況を図るのか決めるべき。 -1 厚木高校なら反転授業ができる。進度も遅れないので考えてみるとよい。 -2 GTEC は県内平均などで比較するとよい。	「思考力・判断力・表現力」の目標の共有を意識させることができたが、手立てや評価への反映には課題が残る。また、SSH における各教科の取組目的も浸透度が低かったが、報告書作成時の資料まとめて共有することができた。 アンケート結果や意識調査のデータ化で変化を検証することができた。SSH の教育活動の生徒への浸透率が高いことが読み取れた。これらを活用し、SSH 継続申請に向けた内容検討が最大の課題となる。	平成 29 年度は「教科研会議」の立ち上げにより、目的と手立て・評価の研究に着手する。 授業アンケートなどデータ数値推移から検証することを重視したが、考察しやすく、次年度も項目を決め、数値検証を継続する。
2 (幼児・児童) 生徒指導・支援	自主的に全体のために行動できる力を育成するとともに生徒自らが学習計画と学校生活のバランス調整できるよう組織的な支援体制を確立する。	学習と学校行事や部活動の両立を支援し、生徒間の切磋琢磨による「文武両道・質実剛健」の精神を意識させる。	-1 行事や部活動における自主運営を支援する。 -2 面談や Q-U 検査等で把握された生徒の変化にすばやく対応する。	-1 部活加入状況の分析結果はどうであったか。 -1 生徒会生徒の組織的運営は向上したか。また生徒間で継承されているか。 -2 丁寧な面談や支援にかかる情報の抽出、会議の設定等が計画的かつ組織的に行われたか。	-1 部活動加入率 91% で前年同程度であったが関東大会以上の大会数 12 で意欲的な活動があったと考えられる。 -1 生徒会総務に生徒がワーキンググループ 3 分野立上げた。 -2 コーディネータによるケース会議 14 回	-1 新入生に対する部活動紹介事業の継続と各部への支援体制の継続が必要である。 -1 自主的活動円滑化に向けた支援の手立てを今後も考えていく。 -2 支援プログラムの整理とコーディネータの業務の明確化が課題。	-1 大会結果がすばらしい。 -2 SNS に関する指導で中学との連携をしたらよいのではないか。	文化祭では生徒への連絡や頭髪指導など生徒原案が職員に示されるなど生徒会活動に進展が見られたが、職員に頼る部分もまだかなりある。学年を超え、教育相談コーディネータが調整したが、個人能力に係る部分が大きい。	生徒支援グループ改編、人数増により、細分化した生徒会指導体制を目指す。支援プログラムを検証し、支援と指導を区別した対応を整理し、コーディネータ会議の方向性を明確化させる。

3	進路指導・支援	主体的学びから進路決定に結びつける進路指導の実現と各種模試試験などを活用し、高い進路希望を諦めさせずに維持させ、高い進路実績を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> -1 模試結果や面談を活用し、第一希望進路の決定過程の支援を充実させ生徒のモチベーションを高める。 -2 センター試験全受験者に占める5(6)教科7科目型受験者の割合を70%以上、国公立大の現役合格者が100名以上うち難関国公立大学20名以上を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> -1 探究活動の成果を進路決定に結びつける指導の充実を図る。 -1 1,2学年の早い時期から高い進路希望を引き出す。 -2 難関国公立大学への進路希望を引き出す進路指導のあり方を検討する。 -2 最後まで諦めさせない進路指導を貫く。 	<ul style="list-style-type: none"> -1 探究活動の成果はどうであったか。 -1 入学時から継続した成績推移等のデータ活用ができたか -2 合格者の分析などを行い、難関国公立合格への指導体制を検証できたか。 -2 情報提供や面談を充実させた進路指導をおこなったか。 -2 進学実績はどうであったか。 	<ul style="list-style-type: none"> -1 ヴェリタスのテーマを活用した受験者2名、昨年より1名増加した。 -1 蓄積したデータにより在学生の模試受験時数値と合格者数値を比較させた。 -2 センター同日模試受験指導強化し、受験者数は1年105人、2年305人となった。 -2 センター試験5教科7科目、6教科7科目型の国公立大学系の受験者が11名増加し155名であった。 -2 実績は集約中 	<ul style="list-style-type: none"> -1 科学コンテンツや課題探究の成果と関連したAO試験等の情報を提供を模索する。 -2 電子データ活用と面談時資料の共通化で進路指導のボトムアップが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> -2 1年からの徹底した進路指導が必要なのではないか。学校としての軸のある指導体制が必要である。 -2 首都圏だけでなく全国国公立大学の受験指導も必要。保護者への理解と協力を求める手立てが肝要である。 	グループ内でのデータ活用を進めることができた。また、同日模試指導強化についての保護者案内など学校としての指導体制が明確化した。しかし組織化された手立てにはいたっていない。	経年変化のデータでの指導の徹底や、保護者への進路指導をグループ業務として再確認させる。 教科指導における数値目標としてのデータの活用を進める。
4	地域等との協働	学校間連携を進めるとともに、学校活動をいち早く公開し、発信に努め、地域の教育活動へ参画・協働を模索する。	魅力ある広報活動ならびに地域や学校間連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> -1HP や学校説明会を活用し、本校の教育の特色、生徒の学習成果など、本校の魅力を発信する。 -2 地域の中学校や自治会と連携した活動を活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> -1HP の更新状況、学校説明会の参加者数は増加したか。 -1 入学志願者数は増加したか。 -2 生徒の地域活動への参加数はどうであったか。 	<ul style="list-style-type: none"> -1HP を30回更新。横浜方面で新たに説明会を実施し、新たな方面からの志願者数が増加した。 -2 交通安全で生徒による地域貢献を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> -1 各グループ主体の更新なので情報グループが計画的に推進していく体制が必要。 -2 地域貢献の新たな手立てが検討されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> -1 努力と新しい取り組みは評価できる。生徒による説明会の質向上も継続してほしい。 -2 英語による地域貢献が特色につながる。 	各担当でのHP更新は滞りなく進められているのでHP全体に関する再検討が課題。	デザインや更新時期などの検討。
5	学校管理 学校運営	信頼にねざした学校づくりにむけ、事故防止の取組を推進するとともに学校全体の企画調整機能を強化し、経営課題を横断的かつ組織的に検討し、教育活動の展開・拡充させる。	業務全体と考える事故を整理し、職員の意識を高めるとともに、組織力向上の手立てを考える。	<ul style="list-style-type: none"> -1 通年業務に見合った事故防止会議やヒヤリハットを提供しながら風通しの良い職場環境をめざし組織で事故防止を図る。 -2 横断的学校運営、人材育成を図る。 -3 安全・安心な学校環境づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> -1 計画的な事故防止会議が開催できたか。 -1 職員一人ひとりが自己点検の正確さの振り返りをおこなっているか -2 職員同士の連携はどうであったか。職員のリーダー育成はできたか。 -3 環境整備、安全教育の実施状況はどのようであったか。 -3 節電・節水の状況はどうであったか。 	<ul style="list-style-type: none"> -1月1回のペースで事故防止会議を開催した。 -2 研修復命として職員による復命研修を3回開催した。校内リーダー研修会を実施した。 -3 生徒会の要望と連携し、昇降口前スロープや赤水対策などの改修すすめた。 	<ul style="list-style-type: none"> -1,2 事故防止への意識付けや復命報告会は継続する。 -3 学校設備に関する生徒意見書との連携を継続する 	-1,2 復命報告研修は大変よい。	入学者選抜のみならず、事故のない校務遂行への職員の意識の高まりがうかがえた。雑多な業務の中で抜け落ちてしまった点検もあったので継続した取組が必要。 職場環境、校務改善のための職員意見を集約しながら進めることができた。	点検業務の意義確認と啓発の継続 職員間のコミュニケーションや情報共有の体制づくりの継続。